

Sanjo Minami Rotary Club

2005～2006年度

第2560地区 三条南ロータリークラブ

2005年11月14日 第1765回 本年度第16回

週報

今週のおロータリアン



超我の奉仕

2005～2006年度 国際ロータリーのテーマ



【出席率】 会員63名中50名

【先々週の出席率】 91.67%

【ゲスト】 1999～2000年ロータリー財団奨学生 高田晴夫様

【先週のメイクアップ】

11/8	三条北RCへ	天田 匡君	星野健司君	飯山勝義君	丸山徹夫君	武藤昭三君
11/9	三条RCへ	野崎正明君	鈴木圀彦君	飯山勝義君	丸山徹夫君	武藤昭三君
		船久保孝志君	長谷川晴生君	鈴木圀彦君	若井 博君	
11/11	吉田RCへ	西巻克郎君	野島廣一郎君			
		木原 崇君				

会長挨拶

佐藤 栄祐 会長

皆様、こんにちは。

先週は、味覚例会でご夫人をお招きしての夜例会でございました。如何でしたでしょうか。

また、一昨日は、会員の丸山徹夫さんのご長男の結婚式にお招きを頂き列席させていただきました。誠におめでとうございます。

さて、今週は「ロータリー財団月間」でございます。丸田委員長による国際ロータリー財団の圧力に対する苦しい胸のうちのお話でもあるのかなと勝手に考えておりましたところ、先程ご紹介のございました、高田晴夫教授の卓話を頂くことになり大変喜んでおるところでございます。

例会毎のご挨拶での話のネタ探しには何かと苦慮致しておりますところではありますが、実は今回、フランス小咄でもと考えておりましたところ、フランスをご専門も先生の卓話、素人の私が出る幕ではございませんので、急遽取り止めにした次第であります。いずれ機会がございました折にでも、ということに致しまして本日はこれまで・・・。



国際ロータリークラブ 会長
 第2560地区 カバナー
 第4分区アシスタントガバナー
 会長 佐藤 栄祐
 三条南ロータリー事務局

カール・ヴィルヘルム・ステンハマー(スウェーデン)

神 成 肅 一 (新潟西)

片 山 弘 (燕)

幹 事 船久保 孝 志

〒955-8666 三条市旭町2-5-10

tel 0256-35-3477

e-mail info@sanjo-minami.jp

SAA

荒澤 威彦

三条信用金庫本店内

fax 0256-32-7095

URL http://www.sanjo-minami.jp

幹事報告

船久保 孝志 幹事

●中條ガバナーエレクト事務所より 中條年度地区委員長会議のご案内

日時 2005年11月18日(金) 17:00～

会場 三条ロイヤルホテル

出席要請 中條年度地区社会奉仕委員会

委員長：葦澤喜一郎会員 委員：佐藤嘉男会員 佐々木常行会員

委員会報告

◎ゴルフ同好会

丸田 肇一会长



ゴルフ同好会 沖縄遠征のご案内

とき 平成18年1月7日(土)～9日(月・成人の日)

ところ ブセナカントリークラブ & 琉球ゴルフクラブ

概算費用 170,000円

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

前回の沖縄遠征での一枚です。



ロータリーの友 11月号 紹介

岡村 一男 会員

*「友」の横組み、縦組みの意味を改めて認識致しました。

横組みには、RIからのお知らせ等ロータリーの関連記事が、縦組みには、全国のロータリアンからの投稿記事等が掲載され、ロータリアンの交流となっています。

*私の今月号のお勧めは、縦組みP7「風紋 その人、その人生」です。シウマイから魅力ある「横浜料理」の創造をめざす(株)崎陽軒の会長、野並豊氏(横浜西RC)のその人、その人生に感銘を受けました。

*縦組みP17「言いたい・聞きたい」の『私の好きな一字 今』
今というたった一字にある深い意味を知りました。

ニコニコボツマン



～11月14日 ¥44,000 今年度累計¥435,000～

佐藤(栄)君

丸山徹夫さん、おめでとうございます。

本日は財団月間です。高田先生をお迎えしての卓話有難うございます。

船久保君

丸山徹夫さん、ご長男のご結婚おめでとうございます。

高田晴夫教授、本日は卓話有難うございます。

丸山(徹)君

12日(土)に長男の結婚式を行ないました。孫と嫁が一度に出来ました。

会長、幹事から出席していただき有難うございました。

鈴木(圀)君

父の葬儀に大勢の会員の皆様からお参りしていただき有難うございました。

丸田君

ロータリー財団月間です。新潟大学 高田晴夫教授に講演をお願いしました。

坪井君

一昨日、丸山徹夫さんの長男の結婚式におよばれました。盛大でした。佐藤会長の歌の素晴らしさに出席の皆さん酔いしれました。

吉田(秀)君

先月初め、カナダ東部の紅葉を見に行きましたが、天候が悪く、美しい景色をカメラに収められませんでした。「ロータリーの友」の表紙を見ている方が良かった。

石山君

可愛いお嫁さんが来てくれて毎日の生活にハリがでました。

滝口君

昨日、初めて私の会(わかばの会)のコンサートが、70人位集まって大変良かった。

毎年行いたいと思っておりますのでよろしく!

広岡君 秋の味覚例会、大変有難うございました。
若井君 野崎さんと目が合ってしまった。BOXに協力します。
安達君、田中（久）君、野中君
都合で早退させていただきます。BOXに協力
荒澤君、岡村君、坂本君、佐々木君、田代君、田中（正）君、銅冶君、永桶君、
馬場（信）君、平松君、星野君
BOXに協力致します。
野崎君 本日のご協力大変有難うございました。

ロータリー財団月間

「私の留学体験」

1999～2000年度ロータリー財団国際親善奨学生
新潟大学人文学部教授 高田晴夫様

皆さん、こんにちは。ご紹介にあずかりました新潟大学の
高田です。今日は、（ロータリー財団月間の活動の一環として、）
三条南ロータリークラブにお招きいただきありがとうございます。
まず、去年の7・13水害にあわれました、三
条の皆様にお見舞い申し上げます。また、亡くなられ
方には、心よりお悔やみ申し上げます。

さて、私は1999～2000年度ロータリー財団国際親
善奨学生の試験を受け合格させていただきました。試験に先
立ちスポンサーロータリークラブであった新潟ロータリー
クラブの本間さん（丸屋本店の社長さん）にはいろいろお世
話になりました。本間さんに試験前にロータリーについてい
ろいろ教えていただき、ロータリー財団国際親善奨学金制度について理解を深めることができましたことは試験
に大変役に立ちました。氏のご指導がなかったら、このような機会をうることはなかったでしょう。本間さんには、あらためて、この場をお借りし、お礼を申し上げたいと思います。



私は、財団国際親善奨学生として、フランスのルールという街に派遣されました。ルールという街は、パリから北東に200キロぐらい離れた、ベルギーの国境に近いところにある街です。英仏海底トンネルのフランス側の入口があり、パリとロンドンを結ぶユーロスターという新幹線が必ず通過する街です。ルール市はフランスで第4番目に大きな街で、近くには、ロダンのカレーの市民の彫像で有名なカレーと言う街があります。13世紀、イギリスの圧政から逃れるため、自らの命と引き換えにカレーの街を救った市民をモチーフにした立像です。これは、上野西洋国立美術館にも複製があるので、お馴染みですね。それから、ルールの近くには、第二次世界大戦の激戦地であったダンケルクという街があります。ダンケルクの海岸の丘陵地帯に行きますと、空爆による大きな窪地が至る所にみられ、また、海外線にそってドイツ軍が使用したブロックハウスと呼ばれる、堅牢な四角いコンクリート製の防御陣地がいくつも点在しているのを見ることができ、未だに、第二次世界大戦の爪痕が残っているのを実感できます。ルールには函館の五稜郭のモデルになった城塞があります。また、政治的にはこの街は、フランス社会党の強い地盤をもつ街です。第二次世界大戦のレジスタンス運動の指導者で戦後大統領になったドゴール將軍の出身地です。さらに、この街にはフランスで最初の自動地下鉄が走っています。運転手がない地下鉄です。運転手がない地下鉄なので、ホームと電車が入ってくる線路の間はガラス張りで、電車が止まると、ガラスのドアが自動的に開き、乗客の乗り降りが終わると、また自動的に閉まるという仕掛けになっています。現在は、パリ市内にも自動地下鉄が走るようになっているようですが、フランスで最初に敷設されたこの地下鉄をルール市民は誇りにしているようです。

ルールの街での思い出ですが、ホストクラブのロータリアンの方がいろいろとお世話して下さいました。中でも、大変ありがたく思ったのは、銀行の口座の開設でした。普通、外国で銀行の口座を一人で開設するとなると、大変な時間と労力がいらいます。顧問ロータリアンのリアーグルさん（この方は歯医者でした）のお陰で、銀行へ行ったその日に即日開設する事ができた時ほど、ロータリークラブの組織のすごさを感じたことはありませんでした。リアーグルさんには、困った時にはよく相談にのってもらいました。

また、滞在中一番印象に残ったことは、エペルネー（Epernay）というパリから150キロぐらい離れた小さな街で行われた財団国際親善奨学生の集いの会です。地元のロータリーの方々、いろいろとお世話して下さいました。宿泊、バスツアーによる観光名所巡り、パーティーなど、実にきめ細かい計画を立て、私たちを郑重にお

迎えて下さったことに感動を憶えました。このようなロータリークラブの方々とのふれあいは、貴重な心の財産となりました。

ところで、一年間の滞在生活で、意外だなあと考えたことは、義務だと思っていたスピーチを要請されなかったことでした。ホストクラブの方にも、スピーチの準備はいつでもできています、だから、機会があったらいつでもとんで行きます、と伝えておいたにも関わらず、結局、一度も、スピーチを頼まれませんでしたので、少々がっかりしました。

さて、研究の面ですが、リールという街ではリール大学という大学の附属の言語学研究所に受け入れていただきました。このような貴重な機会を賜りましたことは、まことに感謝の念に堪えません。なぜなら、一年間の研究生活のお陰で、私は、フランスの大学から博士論文を書く資格を与えられ、帰国後、3年かけて、論文を書き上げ、昨年、フランスの大学に博士論文を提出して、博士号を取得することができたからです。博士号を取得することは、私の長い間の夢でありましたので、取得できた時は、誠に感無量でした。ちなみに、私の博士号の論文のテーマは「フランス語と日本語の合成語の作り方の比較研究」です。

さて、私は、大学の研究所に働く方々と、たくさんの交流をすることができ、フランスの教育システムについて、多くのことを考え、学ぶことができました。たとえば、フランスの大学の授業料は基本的には、ただであるのはなぜか？それは一つにはフランスは日本より、社会保障に手厚い社会を目指しているからです。この点、日本と逆の社会です。したがって、当然、税負担も大きな社会です。もう一つの理由は、教育を受ける権利が、人間の普遍的な権利であるという考え方があるからです。ですから、外国人も同じ権利を享受することができます。私も、日本で博士号の論文を書いている間、毎年、学生として登録し続けていました。

もうひとつ日本とフランスで大きな違いがあります。フランスの大学は休日や夏期休暇、冬期休暇などの長期、学が閉鎖します。学生はもちろんのこと教員も閉め出されます。図書館も閉まります。これには、いろいろと考えさせられました。果たして、日本の大学のように、休日や長期休暇でも利用できるのがいいのか、それともフランスのようなシステムがいいのか、いまだに、私は悩んでおります。たとえば、どこかの大学のように金曜日ともなると、どこかの階の学生合同研究室で鍋料理で宴会をやっているのがいいのか、それとも、フランスの大学のように大学の建物は国会の財産だと言わんばかりの徹底ぶりの方がいいのか。フランスのようなシステムですと教室の外では教員と学生のふれあいというものはほとんどない、学生同士がいつでも共に研鑽できる空間がないというのは、決してよいとは言えないと私は考えます。しかし、日本のようなシステムですと、いつでも、建物の中に入れるわけですから、合同研究室を自分の下宿と勘違いしてしまう学生が生まれてしまうことだってある訳です。実際、夕食になると合同研究室でことごとと包丁でまな板をたたっている学生がおり、教員の中には、それは仕方がないものと容認する者もいるわけです。そうすると、そういうことが迷惑だと思える教員も当然いる訳です（実は私がそのひとりなのですが）。このような光景は、日本の大学ではどこでも見られる風景なのかもしれませんが、公私混同も甚だしいと考えます。だから、私は、日本とフランスのシステムの間位なのが一番いいのではないかと常々思っております。

さて次に、私は大学に勤務しているので、大学人から見て、財団国際親善奨学生制度、ロータリークラブはどのように見えるかを少しお話しします。

私の周りには学生時代に財団国際親善奨学生として留学して、その後、大学に勤務している方が大変大勢おります。また、私のようにすでに勤務している者で、財団国際親善奨学生として、海外の大学と交流することができたという人もまた、大勢おります。大学には在外研修という制度がありますが、奨学金の数が極めて限られていて長年勤務しても、もらえる保証はない。そのような中で、財団国際親善奨学生制度は、大学ができないことを教育および研究の面で、手助けしてくださっているというのが私の正直な印象です。

最後に、私はロータリー財団国際親善奨学生として選ばれ、皆さんの貴重なご寄付でフランスに派遣させていただきましたことに深く感謝申し上げます。国際親善という貴重な体験をさせて頂きながら、私自身の研究を飛躍させていただきましたことは生涯忘れません。財団国際親善奨学生制度に挑戦する私の学生達にもこの制度が、皆様のご寄付に支えられているすばらしい制度であることを、これまで教えてきましたし、これからも教えていきたいと思っております。今後、微力ではありますが、日頃の教育や研究を通じて、皆様のロータリークラブの活動についての理解を深め、そして、広げる努力をすることを決意し、私のテーブルスピーチに代えさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

プロフィール

北海道出身。昭和54年、東京外国語大学大学院修士課程修了。

昭和54年、東京外国語大学、東京家政大学、共立女子短期大学非常勤講師。昭和57年、高崎経済大学専任講師。昭和60年新潟大学人文学部助教授。平成7年新潟大学人文学部教授。現在に至る。

専門はフランス語学。フランス語と日本語の語形成法の比較研究。

言語学博士（パリ大学にて2004年取得）

Who is this Rotarian of this week?

この方は **どなたでしょうか?** この方にお聞きしました。

Q 1 あなたの年齢は何歳ですか

A : 満68歳

Q 2 あなたの趣味は何ですか

A : ゴルフ

Q 3 もし若くなれるなら何歳位になりたいですか

A : 2歳

Q 4 その年になれたらどんな職業についていると思いますか

A : フロゴルフアーを目指します。

Q 5 一つだけ望みが叶うなら何を望みますか

A : タイガーウッズを超える世界一のフロゴルフアー

Q 6 思い出に残るロータリーでの出来事がありますか

A : 1981年5月23日親睦旅行で月岡温泉に泊り、翌24日は23名でゴルフコンペ。田中正佐久さん、横山準司さん、坪井正康さん、丸田肇一さん等々の強豪を抑えて39・39のグロス78で準優勝、ベストグロス、水平賞を獲得。このときの優勝は・・・相田明雄さんでした!

Q 7 その他お話したいことはありますか

どなたがおわがりになりましたか?

答えは 会員ギャラリー「見て見て見て/フォトギャラリー」にあります。

また、プリント週報は次週週報に答えを掲載いたします。

[【線画に戻る】](#)

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

I 真実か どうか

III 好意と友情を深めるか

II みんなに公平か

IV みんなのためになるか どうか